

年金局

もしもの時、年金はあなたの力になれる！

Mission

日本は、男性・女性ともに平均寿命が80歳を超えており、世界でも有数の長寿国です。この長い老後生活を世代間の支えあいの仕組みを通じて、経済面から支えるのが公的年金制度です。

公的年金の加入者は6700万人、そして約3900万人に年額約54兆円（平成26年度予算額）の年金が支払われてい

ます。年金は高齢者世帯の収入の約7割を占め、約6割の高齢者世帯が年金収入だけで生活しています。公的年金制度は国民の生活を支える重要な役割を担っています。

将来にわたって安心した生活が送れるように制度・運用面での企画立案を行うことが年金局の使命です。

年金局では、将来にわたって持続可能な年金制度のあり方を考え、制度設計をするとともに、国民に信頼されることを目指し、年金の給付・記録の管理・保険料の徴収等の年金実務を日本年金機構と共に取り組んでいます。

【政策紹介 1】

世代と世代の支え合い

年金制度には、国が運営する公的年金と、個人や企業の選択で加入する私的年金の2つがあります。

将来に何が起こり、その後の人生がどのようなものになるかということは、誰にも予測することはできません。公的年金は、高齢になったり、障害を負ったりして、自ら働いて収入を得ることが出来なくなった人や、一家の働き手が亡くなってしまい、生活を支えていくための収入を失ってしまった人が、その後の長い人生を安心して暮らしていくことができるよう、予測できない将来に備えて、世代を超えて社会全体で支え合う仕組みです。

少子高齢化が進行し、人々の生活のあり方が変化している中で、公的年金制度の長期的な持続可能性を高め、社会のセーフティネットとしての機能をより強めていくことが必要です。制度を支える側と支えられる側の負担と給付のバランスを保ちながら、将来の世代の給付水準の確保を目指しつつ、女性や高齢者、短時間労働者等の働き方やライフコー

スの多様化等にあわせた制度の見直しを進めています。

企業年金等の私的年金は、企業や個人の自助努力により、公的年金に上乗せして給付するものです。日本では約1600万人の加入者がいます。今後、公的年金が中長期的な給付調整に入っていく中で、より豊かな老後生活に備えることを目的としています。

英国、米国、ドイツ等の欧米諸国やチリ等の南米諸国においても、それぞれの国の情勢を背景に、公的年金だけではなく、企業年金制度等の私的年金を含めて、年金制度を考えていくという流れが確立しつつあります。日本でも、厚生労働省を中心に、制度を運営する金融機関や基金、制度への参加者である事業主や労働者の代表等にお集まりいただいて精力的に議論を行い、企業年金制度の普及・拡大に向けた見直しに向けて取り組んでいます。

年金局では、公的年金・企業年金等の私的年金の両面から、年金制度のより良い仕組み作りを続けていきます。

【政策紹介 2】

グローバルに活躍する皆様を支えるために

グローバル化が進行している現在、海外で働く日本人や海外から働きに来る外国人の方が増加しています。日本と外国の年金制度等の二重払い防止等のために、社会保障協定の締結を進めています。

これまでに、欧米先進国を中心に15ヶ国との間で協定が発効したほか、昨今の日本と新興国との経済関係の進展に伴い、新興国との間でも協定の締結を進めているところです。



〔社会保障協定：フィリピンとの協議〕

【政策紹介 3】

信頼される公的年金制度を目指して

年金制度が信頼されるためには、記録の管理等の実務が正確かつ公平に行われることが重要です。

年金の事業運営については、低所得の方への保険料の免除の適用や所得のある方への強制徴収の徹底などの被保険者の状況に応じた対応を行っており、厚生年金保険については、関係機関と連携した事業所の把握など、適用徴収に力を入れています。

また、全国の年金事務所や「ねんきんダイヤル」等を運営している日本年金機構と共に年金の事業運営に取り組んでいます。

Keyword 国民年金はコンビニで納付ができます～制度への理解向上を目指して～

国民の皆様が年金制度について正しくご理解いただくために、年金局では様々な広報活動を行っています。

国民年金保険料は夜間や休日でも納付できること等を知っていただくために、平成26年6月に全国約5万店のコンビニの協力により、店頭でポスターを掲示しました。



国民年金納付啓発ポスター掲示イベント：
ノンノ専属モデルの荒井萌さんが取材に来ました。
- セブンイレブン学習院大学店にて -

また平成26年より「ねんきんネット」等を活用しながら、高齢期の生活設計に思いを巡らせていただく日として、11月30日(いいみらい)を「年金の日」とし、年金シンポジウムを行いました。制度改正についての講演に加え、「わたしと年金」エッセイの表彰式や年金落語を行いました。

平成27年以降も年金制度の意義をより知っていただけるよう取り組みます。



〔年金シンポジウム「わたしと年金」エッセイの表彰式〕